

令和3年度の学校評価

重点目標	1 規範意識の醸成と基本的な生活習慣の確立 3 生徒の可能性の追求と進路目標の実現 5 地域の文化や歴史の理解と主権者教育の充実	2 基礎学力の定着から発展的な学びへの伸長 4 学校行事や部活動を通しての豊かな人間性の育成 6 業務改善と健康障害防止の実現	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	地域活動の深度化	・地域イベント等への積極的な参加	作成にかかわったあま市の観光マップが発行されるなど、本校生徒の地域活動が形となって現れてきている。先生方の御協力を仰ぎながら、より地域に密着した学校となるようにしていきたい。
	広報活動のさらなる充実	・発信力の強化	本校の教育活動をタイムリーに発信することができている。校内の諸掲示も刷新することができた。より一層本校の情報発信に努めていきたい。
教務部	授業内容の充実	・授業や総合学習を活用した主体的な学習姿勢の育成	生徒の実態に応じた指導については各教科とも少しずつではあるが進めることができた。次年度はさらに継続していきたい。また、学習内容の定着という面に関してはまだ課題も多い。
	目標の設定と学習意欲の喚起	・授業や面談などを活用した具体的な目標設定	・生徒の目標の設定については、ある程度効果がみられたが、主体的な学習への取組には今後も継続的なはたらきかけが必要である。
進路指導部	適切な進路目標の設定	・充実した進路情報の提供	進路講話や進路通信を中心に、進路情報を提供することは例年通り実施できたが、それらの活用を度合いを調べることはできず、各担任の先生方にヒアリングしながら、今後より実用的なものを提供していきたい。
	進路目標の実現	・総合的な学力の育成	各学年との進路検討会の場において、最新の進路情報を提供することはできたが、それらをどう活用するか、またそれに応じてどう学習活動をするのかという議論はやりきることができなかった。
生徒指導部	社会で通用するマナーの育成	・自発的な挨拶の励行や、時間やルールを守らせることにより落ち着いた学校生活を送らせる。	自発的な挨拶ができる生徒は増加傾向である。コロナ禍の影響もあると思われるが、遅刻欠席が各学年とも目立つ傾向にある。学校での生活は落ち着いた行動がとれる生徒が多い。
	規律を守る生徒の育成	・指導の徹底と生徒が安心できる指導体制の確立	身だしなみ指導等では指導に従う雰囲気はできている。不安を抱える生徒は一定数いるが、各学年で対応が出来ている。
図書部	図書館利用者および貸出数の増加	・図書館内の展示や広報活動、読書関連行事の利用	全国読書週間の際に、貸出した生徒に対して新たな行事を催した。冬季休業貸出数も無制限にするなど、生徒がより利用しやすい工夫ができた。生徒作成のポスターを展示し、教員からだけでなく、生徒の手も借りて広報を行うことができた。
	読書環境の整備ならびに充実	・購入希望図書、企画展示・調べ学習等に必要図書の計画的整備	購入希望図書の申請を後期も実施し、生徒・職員の希望を集約できた。新しい本や学習に必要な本の情報などを収集し、より適当な本を選書していきたい。呼びかけも引き続き実施していく。
特別活動部	生徒会活動の充実	・学校祭はじめ各行事内容の充実 ・各行事自主運営化促進	多くの生徒が、ボランティア、美和高祭、募金などの活動において、積極的に参加・協力した。美和高祭の発表は、クオリティーが高くなってきたが、更に上のレベルを目指していきたい。2年連続で分散開催となった文化祭を完全実施に向けて準備していきたい。
	部活動の活性化	・部活動の試合予定や結果の掲示と発信 ・部活動の再編 ・学校行事、地域活動への積極的な参加	美和高祭やあま市ゴミゼロ運動などの行事において、部活動生徒の力とリーダーシップが十分に発揮された。部室や活動場所の清掃や除草が定期的に行われるようになり、校内美化に貢献できた。部活動の最新情報を学校のホームページで定期的に更新し、発信していきたい。
保健美化部	生徒を活動させることによって健康・安全などの啓発活動	・清掃活動の充実 ・健康診断の円滑な運営 ・安全点検実施による環境整備	美化委員は落葉清掃などで校内の環境美化に貢献していた。保健委員は年間通じて体調不良の生徒を保健室へ引率していた。来年度は保健美化部の年間行事の内容を精査して、美化委員には清掃活動のチェックや保健委員には教室の換気など委員の自主的かつ意欲的な活動を増やしていきたい。
	教育相談活動の充実	・支援を必要とする生徒の実態把握と協力体制のさらなる確立	毎日の健康観察や担任はじめ学年団と養護教諭とSCの連携を密にすることで、コロナ禍の状況でも生徒だけでなく保護者をサポートすることができた。しかし年々精神的支援が必要な生徒が増加しており、いじめアンケートの事後対応をより円滑に実施していくなど、適切な方法を各分掌と連携を取りながら進化させていく必要性を感じた。
1年生	基本的な生活習慣の確立	・基礎学力を向上、学習習慣の定着 ・挨拶の励行、身だしなみ指導、遅刻防止運動	欠席が増え、教育相談や担任・学年主任面談、教務面談を頻繁に行い対策をしたが、不登校になった生徒が何人かいる。メンタル不安や家庭でのトラブルに対するサポートをしたが、解決できなかった。
	進路への意識付け	・卒業後の進路への意識付け ・考査、模試、進路希望調査、面談を通じた生徒の実態把握	1年を通して、面談を頻繁に行い、生徒の状況を把握することができた。まだ志望する進路が見つかっていない生徒もいるので、2年次も手厚く支援したい。
2年生	基本的な生活習慣の確立と、規範意識の育成	・身だしなみ指導や遅刻防止運動 ・挨拶の励行 ・清掃活動への前向きな取り組み	声かけや指導に関しては全体としては取り組んでいる。多くの生徒がそれに応じて前向きな取り組みができていく。しかし、学年全体となるとまだ行き届かないところも多い。今後毎日頃からの声かけを行い、最高学年としての意識をつけさせていきたい。
	学習習慣の確立、主体的に学ぶ姿勢の育成と進路目標の明確化	・教室環境の整備 ・リーダーの育成のための機会の設定 ・進路講話、模擬試験等の活用	意識の差の開きがなかなか縮まらない状況が続いている。進路について学ぶ機会や模試の状況などは悪くないが本格的にスタートを切っている者は少ない。集団として受験に向かう学年へと変えていきたい。
3年生	自ら学ぶ習慣の形成	・授業や課題の工夫、面談の充実 ・規則正しい生活習慣につながる指導	仲間同士で励まし合い、意欲的に学習する生徒が多くなったが、生活習慣が乱れ、落ち着きのない生徒もいる。日頃から声掛けをし、最後までしっかりと意識させていきたい。
	進路希望の実現	・特別学習、模試、土曜学習会などへの積極的な取組の推進	授業中の様子や放課後の様子を見るかぎり、意欲的な生徒も多く、受験生らしくなってきた。ただ、一部進路先が決まった生徒で温度差が出てきたのも事実あり、学年全体として意識を高めていきたい。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する生徒に対して、主体的に学び行動できる生徒を育成するため指導体制を確立し実践する。 ・人権を意識することを礎に、様々な教育活動で生徒の可能性を発見し、伸ばしていく。 	